



No. 104

ティー・ブレイク

Tea Break

故郷の水の新名所

私の生まれたのは、宮本武蔵と同じ、岡山県の作州なのですが、育ったのは鳥取県倉吉市です。

今は、宮本武蔵のライバルの柳生の里がある奈良県に住んでいて、大阪で働いています。岡山でも、鳥取でも、奈良でも食っていけないから、大阪に出稼ぎに来て生計を立てている。行く行くは東京に出て一旗揚げたいという気持ちを持っている。

それでも、忘れ難きは故郷で、倉吉市の近くに名水百選に選ばれた塩釜の冷泉がある。今日は故郷の水の話しましょう。

近年、環境問題や健康ブームの影響を受けて、水が注目を浴びている。日本人の水に対する認識が変わってきている。

名水百選も、昭和 60 年 3 月、全国各地の湧水や河川の中から、100 箇所が環境庁により選定された。

環境劣化により水道水がかび臭くて拙い水の代表格となり、美味しい水、健康に良い水の探求が始まった。

ある時、倉吉市に新しい宝が出てきたらしいという話を聞いて、何の話かと気に掛かっていたが、そのままうちちゃってしまった。

それから、時が過ぎて……。

ある時、倉吉市教育委員会事務局文化課の提供する倉吉観光情報の中に、定番の観光スポットに加えて、白山命水が案内されていた。白山名水（白山名水は（株）白山の登録商標である。）の案内は、次のように書かれていた。「白山命水は鳥取県倉吉市から生まれた地下数百mからくみ上げている天然水です。健康や美容に良い水として高い人気を得ています。」

これを見て、頭の片隅に有った倉吉市の例の宝が、何であったということにピンと来た。

前述したように、鳥取県倉吉市の近くの蒜山に塩釜の冷泉という名水百選に選ばれた名水がある。

帰郷する途中にある塩釜の冷泉で喉を潤して帰るのは、帰郷の際の楽しみの一つでもあった。

そこで、名水百選に選ばれた名水と比較してみようという気になり、実際に白山命水に取材に行ってみることにした。その結果は、以下の通りである。

……

ある土地所有者が、温泉掘削許可申請をして、県知事の許可を得たのであるが、毎年毎年延長をしてきたが、担当者の退職により、もうこれ以上延ばせないということになり、遂に意を決して井戸を掘ることとなった。

温泉掘削は、運良くというか当たり前というか、1,000m 以上掘って湯が湧き出して成功裏に終わった。そして、井戸の近くに建物を立て水道を引こうとすることになったが、水道工事費が予想外に掛かることになった。

しかし、温泉を掘る過程で、200～300m の所に水の層があることは分かっていたので、温泉の掘削装置をそのまま使って、温泉井戸のすぐ隣にもう一本井戸を掘ったほうが安いということになった。そこでもう一本井戸を掘った。その井戸から冷泉が湧き出した。その時までは、何ら命水でもなく単なる地下水であった。

ところが、事態は一変することになる。たまたま知り合いの水博士に依頼して水を成分分析してもらったところ、「余分な活性酸素を体から追い出すだけでなく、傷ついた細胞を修復、強化してくれる天然水」ということになり、健康に良い水の折り紙が張られることになった。

白山名水と名づけられたその水は、口伝えで薬水として評判を呼び、塩釜の冷泉以上の人が、連日白山命水を汲みに来た。そして、前述の倉吉市の新名所となったのである。

ここに、名水は、辞書によれば、有名な清水の意味である。命水は、辞書にはなく、人工的な造語の感じが強く健康に良い水の意であろう。

……

私は思うのであるが、都市は個性がなくても機能するが、田舎に個性がなければ人も集まらず埋没する。上述の人工的であるが偶然性を帯びた瓢箪から駒の新名所物語は如何でしたでしょうか。

1,000m 以上と 200～300m の井戸の深さは努力の程度を表すが、努力は結果には比例しないというのも皮肉なものです。現実的にはこんなものでしょうか？

ちなみに、本命の温泉の湯の方は、今のところ未だ日の目を見ていない。

(Tom Toc)